

2024年度 活動総括

全体

◆前年度策定した『2026年度連盟ビジョンへのアクションプラン』実現に向けて以下について取り組んだ。
①連盟会計を明確にするため新たに基金勘定口座通帳を作成し、一般会計と基金勘定を分けて管理する事とし、一定期間ごと(大会ごと)にその収支について確認を行い厳密適正に管理することとした。
②連盟役員への会議、大会参加時の経費を明確にするため旅費規程を策定した。
③全加盟チームが全国フェスティバル予選会に参加できる様にし、全国フェスティバル予選会の活性化を図った。
④ボトムアップ型大会である「ソ・コラボフェスティバルin大阪」については、個人参加も含めて32チーム150名の参加にて開催でき、魅力ある大会として発信することができた。次年度以降も規模拡大していきたい。
⑤運営委員会等の会議は、オンラインを基本として実施した。時間的・金銭的な負担軽減となっており次年度以降も継続していきたい。ただ、大会実行委員会及び専門部会議は全く開催することができず、運営委員会決定事項をトップダウンで伝達するにとどまった。広く役員からのニーズ等を反映させるシステムについて組織や会議の在り方等について検討が必要である。
◆上記取り組みの結果、連盟全体の収支について、98,315円の黒字となり次年度当初の事務局費として繰り越すことができた。また、基金勘定については、近畿フェスティバル収益の304,727円を加え、1,213,099円となった。
◆(一財)大阪府バレーボール協会から「大阪府バレーボール協会会長杯兼府民スポーツフェスティバル」大会に係る支援として助成金並びにグッズの提供を受けることができ、円滑な大会運営の一助とすることができた。
◆新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類への移行に伴い大会運営については、新型コロナ以前の通常運営とし参加チームの理解を得ながら感染防止対策に努めることができた。
◆指導者育成ならびに指導普及活動の強化のためアクティブリーダー養成講習会とアクティブリーダー研修会を近畿ソフトバレーボール連盟と共催して開催した。
◆8月に近畿ブロック総合フェスティバルを枚方にて開催し、キッズ・ファミリーの部も含めた8種別82チームが参加する盛大な大会規模とすることができた。
◆多くのソフトバレーボール愛好者・クラブに連盟の取組を広報するために、ホームページ、LINE公式アカウント、Facebookページにて情報発信に努めた。また、大会申込をグーグルフォームでも可能なように変更した。併せて、連盟加入・年間計画・各種大会の広報ビラを作成し配付した。
◆能登半島地震義援金活動を実施し、義援金58,575円は日本ソフトバレーボール連盟を通して石川県、富山県、新潟県のソフトバレー愛好者に対して支援を行なうことが出来た。
◆次期役員改選にあたり、意向調査を実施したところ10名程度の退任意向があった。また、任期途中でケガ療養のために退任された総務部のM理事含め、理事就任期間の長短はありますが本連盟の運営にご協力いただいたことに感謝申し上げたい。
◆総務部のN理事におかれましては、2024年10月にご逝去されました。2005年からの長きにわたって連盟ホームページの更新にご尽力いただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

1 主催大会の工夫・活性化(競技部)

◆全国フェスティバル予選会において、会場近隣チームへの普及を図るため交流大会を実施した。
◆各大会の参加資格の柔軟化を進め、府下市町村連盟・協会愛好チームに参加いただくことが出来た。
◆大会当日のコート設営などを参加チームに協力要請することにより大会時間の短縮ができた。
◆試合結果の閲覧を従来の方法(紙に記入)に加え、Match Maker 結果共有QRコードによる方法も導入した。大会参加者からは、リアルタイムに競技結果を閲覧できるとの感想もいただき好評であった。

2 審判技術の向上(審判部)

◆チーム代表委員会時に伝達講習会での審判実技講習を実施し、競技規則の改・修正点等を説明した。
◆大会開会式でのワンポイントレッスンについては、特にフリーゾーンの扱いについて周知するよう心掛けた。しかしながら、大会中の審判スキルクリニックコーナーについては、大会運営や選手として出場などから実施できなかった。
◆ソ・コラボ大会では審判が不慣れなチームもあることから審判デモや審判補助を行った。連盟未加入のチームは審判が大きなハードルとなっており、気軽に参加できる審判講習会の開催を検討していく必要がある。
◆日本連盟からの競技規則(ルールブック)改定情報等について連盟ホームページ等に掲載し周知に努めた。

3 情報提供と連盟への加盟推進(総務部)

◆大会の出場チームに組み合わせや注意事項等の大会情報を周知のため事前に配信した。
◆大会開会式での会議・大会案内、資料配信は全てメールでの配信とし経費削減に努めた。
◆HPの充実を図り大阪府下のみならず全国・近畿のチームとの交流が出来る連盟主催大会の魅力をソフトバレー愛好チームに発信した結果、昨年度より準加盟チームは5チーム増やし8チームとなったが、加盟チームは13チームに留まりに増減はなかった。

4 加盟チームならびに役員の資質向上(指導普及部)

◆アクティブリーダー研修会(リーダー資格からの移行・アクティブリーダーの資格更新)では、グループディスカッションや救急処置講習、スポーツと栄養の講演会などバラエティある研修とすることができた。
◆当該研修会の実施にあたって、事前に更新切れするリーダーへの周知を行ったが更新未希望も若干みられた。
◆アクティブリーダー養成講習会、研修会受講生に対して、グループディスカッションの内容についてフィードバックを行い、リーダーとしての意識づけを図った。
◆市町村のソフトバレーボール連盟への情報発信は都度行った。ただ、発信は限られた市町村となっており仕組みについて検討が必要。
◆「ソ・コラボフェスティバルin大阪」で取り組んだウォーアップの指導方法を連盟ホームページに動画配信した。

5 公益財団法人日本バレーボール協会『登録管理システム』の周知徹底(総務部)

◆今年度、連盟主催の大会に参加いただいた大阪府下ソフトバレー愛好チームに本連盟主催大会や行事等の情報を容易に受信できる(公財)日本バレーボール協会登録管理システム(JVAMRS)の新規登録方法の周知に努めた。